



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 100 号

2012.5.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ー開館について
- ースタッフ紹介

活動報告

- ー山焼き後の雲月山植物観察会
- ーカスミサンショウウオの産卵調査

特集

- ー苅尾電波塔 100 号によせて

観察会案内

- ー大瀆山の春植物観察会
- ーブナ林の野鳥観察会

お し ら せ

● 開館しました

高原の自然館は4月25日より開館しました。今シーズンもスタッフ一同みなさまのお越しをお待ちしております。

● スタッフ紹介

2012年度の高原の自然館のスタッフを紹介します。自然館の窓口で、フィールドで、気軽にお声をかけてくださいね！

学芸員：白川勝信（北広島町教育委員会）

受付事務：

畑本裕彦（北広島町教育委員会）

河野弥生（NPO 法人西中国山地自然史研究会）

● 水辺のいきもの展示中

湿地に産卵するカスミサンショウウオの幼生と成体、八幡の川ではよく見られるタカハヤを高原の自然館内の水槽にて展示しています。ぜひご覧ください。

観 察 会 報 告

● 山焼き後の雲月山植物観察会

開催日時:2012年4月21日(土)9:30

講師:大竹邦暁・佐久間智子

雲月山の山焼きからちょうど1週間が経った4月21日. 山焼き後の植物観察会へ18名の参加者が集まりました.

今回は登山の前に座学を行いました. 本日の講師である佐久間先生から, 広島県で火入れがされている雲月山・深入山・千町原の生育植物数の比較, 絶滅危惧種の数など, フィールドで調査をされている佐久間先生ならではのデータをもとに細かなお話を聞きました. 草原にしか生育しない植物の写真や, 種数の説明を聞き, 参加者はとても興味深そうに聞きっていました.

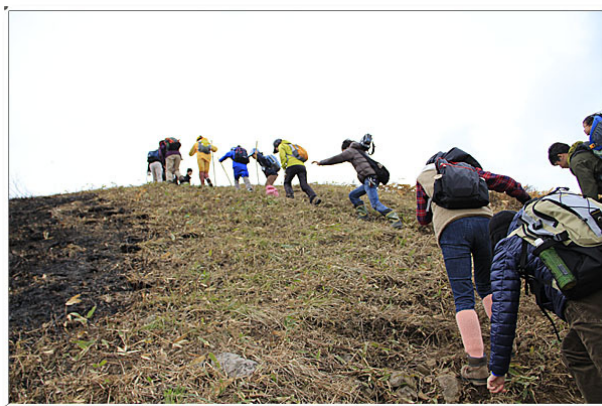
座学の後は登山です. 島根県境の駐車場から先生を先頭に始めましたが, 台風なみの強風に何度も立ち止まったり, 低い姿勢で風をよけながら, なんとか最初のピークにつきました. 尾根沿いを歩くときも風はやまず, 進むので精一杯でしたが, そんな中でも佐久間先生, もう一人の講師大竹先生は雲月山から見える山なみや, 植物の説明を続けてくれました. 吹き飛ばされそうな風の中, ショウジョウスゲやショウジョウバカマはかわいらしい花をつけていました. 2年前に舗装された登山道沿いを歩き, 下の駐車場でお弁当を食べ, 道路を通りもとの場所まで戻りました.

牛による外来種の移入があること, また火が入った後でもすぐに花をつけるショウジョウバカマの秘密があること, 草原という環境ならではの貴重なお話も聞きました. また, ハタネズミの利用した穴をみたり, タチツボスミレの見分け方を教えていただいたりと, 春を確かめる観察が楽しかったです. と同時に, 草原の環境が保つ生物の多様性を感じた観察会でもありました.

風に負けずに歩いてよかった!そして, ツノハシバミの愛らしい雌花を見ることができて幸運な一日でした. 何度も訪れたい愛着のある場所, 雲月山がますます大好きになりました. [このやよい]



今回は座学から. 佐久間先生から詳しく解説.



上の駐車場から登山開始.



ササのなかに隠れていたショウジョウバカマ. 個体によって少しずつ色が違うのがおもしろい.



吹き荒む風を受けながらなんとか歩く。左側を見ると今回焼いたところがよくわかる。



ツノハシバミの雌花をルーペを使って観察。楽しそう！



新しく設置された看板の前で、北広島町では初めての生物多様性保護区域となったいきさつや、実際に保護されている種の説明を聞いた。



キジムシロが黄色い花をさかせていた。

【みなさんの印象に残った物】

「強い風に体が飛びそう」「焼けた土の表面から出ているショウジョウバカマの花が愛おしくかわいかったです」「花が見れたこと」「風で前が見えなかったことです」「台風のような強い風」「強い風」「ショウジョウバカマと風の強さ」「山焼きの後の黒々とした山」「花の名前。タチツボスミレ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「今年もショウジョウバカマの花に会えて良かった」「山焼きの大切さを実感しました」「大変でした」「山がよく焼けていた中で、植物が強く生きている姿が見れて良かったです」「予想以上に寒かった」「山に登ったのが、楽しかった」

観 察 会 報 告

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時 : 2012年4月29日(日) 9:30

講師 : 内藤順一

モニタリングを続けている霧ヶ谷湿原で今年もカスミサンショウウオの産卵調査を行いました。年を追うごとに産卵場所が増えていますが、さて今年はどうでしょうか？高原の自然館の中で内藤先生よりサンショウウオについてのレクチャーを受けた後、4人の小学生を含む16人で調査に向かいました。

はじめに霧ヶ谷湿原の向いの実験地で「カスミサンショウウオの産卵環境」を観察し、どのような場所に、どのような状態で産卵するのか、卵塊のありそうなところ、どのように探したらよいのかを教えていただきました。卵塊を守る親も見ることができ、参加者から驚きの声があがっていました。ヤマアカガエルやタゴガエルの姿もありました。

要領がわかった後は、霧ヶ谷湿原での調査開始です。3班に分かれて、産み付けられた卵塊を探しました。GPSを使って位置を記録し、卵塊数や状態を調査票へ記入します。私たちの班は霧ヶ谷湿原の木道付近の水辺を調査しました。例年に比べ、水がある場所が少なく、干上がったような導水路もありました。また、昨年は同じ調査地でヤマアカガエルの卵塊をたくさんみつけたのですが、今回はオタマジャクシの姿になっていたところが多かったです。他には、コオイムシやヤゴも見つけました。カエルの卵塊ばかりではありません。「こんなところにいそう・・・」という山際で、カスミサンショウウオの卵塊を見つけました！去年は確認されていない場所です。湿原化されていることが、実感できた瞬間でもありました。それぞれの地点で調査を終え、班ごとに調査結果を発表しました。2班では越冬幼生も確認できたということでした。毎年行っている調査のおかげで、どの場所にどのように両生類が棲息しているか知ることができます。データをとっているのおかげで、様々な比較ができます。これらはまた内藤先生が解析をし、発表があることでしょうか。そういった調査のお手伝いのできたこと、湿原の再生化を間近で感じる事ができたことがとても嬉しい調査となりました。[このやよい]



高原の自然館内でレクチャーを受ける。



最初は参加者全員で同じ場所で調査方法や注意点を教えていただく。



あ、そこにカエルがいるよー。



オタマジャクシがいっぱい！ヤマアカガエルかな？？

【みなさんの印象に残った物】

「サンショウオの卵は1個々だと思っ
ていましたが」「ニホンアカガエルの
婚いん色がきれいだった」「サン
ショウウオをさわったり、卵子を
さわったりしてとても楽しかった
です(2)」「この時期の越冬幼生
(カスミ)」「昨年と違って、カ
スミサンショウウオの卵が発見で
きたこと. オオコオイムシを大量
に見たこと」「湿地でのカスミサ
ンショウウオを見ることが出来
、ありがとうございます」「卵塊
(カスミサンショウウオ)がたく
さん見つかってよかったです」「
湿原の手入れが良くされている
こと. 多くのカスミサンショウウ
オの卵、成体、カエルを見ることが
できました」「たまごをみつけた
こと」「たくさんのカスミと、ツ
キノワグマのふんを観察したこと
」「オスのハコネサンショウウ
オが1匹でいた事、卵を見つけら
れた事」「カスミサンショウウ
オを見たこと(2)」



カスミサンショウウオの卵塊を発見！卵数は49個
だった

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

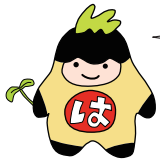
「野イバラで大変でしたが楽し
かったです(3)」「湿地が広がり
、カスミサンショウウオがふえ
てほしい」「私の班でお一人卵
子を見つけられなかったので、見
つけさせてあげたかった。」「
今年にあたたかく、活動しやす
かったです。」「たのしかったです
。」「ありがとうございました。」「
湿原がいい感じに変化していつ
てるので、嬉しいです。」「親
切にわかりやすく教えていただき
良かったです。」「カエルがい
っぱいいた。」「天候も良く、と
ても楽しい時間をいただきました
。岡山からやって来てよかったです
！」「天候が良く観察が良くて
きて楽しかった。でも野イバラ
には参りました。オオヤマザク
ラがきれいでした。」「楽しか
った。(2)」



間近で観察できるのも調査ならではの、カスミサン
ショウウオの成体。

苜尾 100 号によせて

苜尾電波塔は 2004 年より毎月発行され、今回で 100 号！発行を始めた白川学芸員におなじみはらっぱーがインタビューしてみました。



100 号ですね！感想を。

「もう 100 号かぁ」という思いと「やっと 100 号かぁ」という思いの両方があります。
始めたときには、もちろん続けるつもりで始めたわけですが、実際に 100 という数字を見ると、月日の過ぎる早さに驚きます。それでも、こうして綴られたバックナンバーを見ると、自然館も西中国山地自然史研究会も、確実に歩みを重ねてきたんだな、と実感されます..



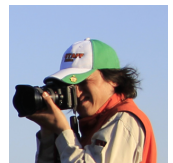
バックナンバーは 4 号から始まっていますが・・・？

実は、第 4 号が発行されるずっと前に、1 号から 3 号までが発行されています。その当時は手書きの挿絵があったりして、配布数もごく限られたものでした。僕はもともと絵を描いたりするのが苦手なので、3 号で止まってしまったんですね。当時は西中国山地自然史研究会の観察会も今よりずっと少なく、そうした余裕もあったのでしょうか。
第 4 号を読み返してみると、今のスタイルとほとんど変わっていません。これはホームページとニュースレターと一緒に作っているからで、(再)刊行の当初からその作業手順は同じです。昔は「花だより」というコーナーがあって、その時期に見られる花の情報を載せていました。



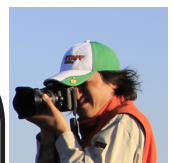
観察会の報告が主ですが、印象に残っている観察会はありますか？

自然館ができた当初は、どの観察会も目新しく、新鮮な驚きがありました。特に、オオサンショウウオや野鳥など、自分の専門外の生物を観察する時には、参加者の方と一緒に楽しくていたように思います。今も楽しんでもますが、
思い出深いのは、霧ヶ谷湿原のワークショップでしょうか。自然館で働き始めて、最初に自分で内容を企画した回でした。45 人もの参加者と一緒に調査をし、その後の話し合いが「八幡湿原自然再生事業」につながりました。現在霧ヶ谷湿原行われている調査や観察会は、ここから始まったと言えます。



これからの発行について、何かありますか？

最近では、河野さんや事務員さんが記事の執筆から編修・印刷までやってくさるので、今はどちらかというと読者に近い立場で電波塔を読ませていただいています。人が変わっても、クオリティは変わらずに(むしろ良くなって)、きちんと発行され続けていることは素晴らしいことだと思います。高原の自然館や西中国山地自然史研究会、さらには西中国山地の自然そのものを記録していく媒体として、この調子で続いていってほしいと思います。いや、続けていきます。内容について、今は観察会の報告がそのほとんどを占めていますが、花暦のような季節の情報やコラムなど、より多くの情報を載せていきたいと思っています。西中国山地自然史研究会の理事のみなさんや、読者のみなさんに寄稿をお願いすることがあるかもしれませんが、その時にはどうぞよろしくお願ひします。



苧尾 100 号によせて

●「苧尾電波塔」読んでいます！

巣箱作りに参加したことがあります。まだ巣箱には鳥さんが来ませんが、キビタキが家回りにいます。他にもいろいろと観察できればいいなと思っています。(八幡人 T)

観察会に参加しようと思いますが、電波塔を見るときにはすでに終了しているものがあるので、イベント情報を参考に、今年は参加したいなと思っています。(八幡人 H)

●月の夜には

わたしはようち園のときに夜の昆虫観察会に参加して、オオミズアオのことを知り、ガに興味を持ちました。この版画は5年生のときに、図工の授業で作りました。観察会で見たオオミズアオがとても印象的だったからです。工夫したところは体の部分の模様です。

今度は野鳥の観察会に行くのが楽しみです。(小6女子)



●めざせ 200 号！

バックナンバーをめくってみると、私が最初に観察会の報告を書かせていただいたのが、2005年7月の湿原の植物観察会でした。思い出してみると、植物も講師の先生方のこともまだよく知らないまま参加し、「ほうほう、なるほど〜」とお話を聞くだけで精一杯でした。その中でも和田秀次先生のいつ聞いても新鮮な「全開でもハンカイソウ」という解説を体験し、強烈なインパクトがあったことを今でも覚えていますし、使わせていただいています。

年間を通じて様々な体験ができ、専門の講師から詳しい解説がある観察会や調査はとても貴重な機会だと思います。

観察会や調査を重ねるうちに、多くの方と知り合ったり、たくさんのことを学びました。身近にある自然の素晴らしさや、生態系の重要さをもフィールドに出て知りました。

年間を通じて様々な体験ができ、専門の講師から詳しい解説がある観察会や調査はとても貴重な機会だと思います。

「来てよかった!」と感じていただける観察会をコーディネートし、参加できなかった方にも情報をしっかりと伝えることができる苧尾電波塔をこれからも充実させて配信していきたいと思っています。

おとなから子どもまで「来てよかった!」と感じていただける観察会をコーディネートし、参加できなかった方にも情報をしっかりと伝えることができる苧尾電波塔をこれからも充実させて配信していきたいと思っています。(このやよい)



初夏に黄色い花を咲かせるハンカイソウ

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 大潰山の春植物観察会

開催日時：2012年5月13日(日) 9:30
集合場所：大佐スキー場(プラッツ内)
講師：暮町昌保・佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

標高998メートルの大潰山に登りながら、スマレの仲間やチャルメルソウ、ギンリョウソウ、ツツジの仲間など春の植物を観察します。佐久間先生の詳しい解説と、暮町先生の小話が人気の観察会です。山頂でお昼にしますので、お弁当を持参下さい。登山前に座学も行います。

● ブナ林の野鳥観察会

開催日時：2012年5月19日(土) 5:00
集合場所：雪霊水
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

早朝のブナ林で、野鳥の観察会を行います。ミソサザイ・コルリ・クロツグミ・キビタキの鳴き声や姿を観察します。上野先生による鳥たちをとりまく環境や、生態の解説も聞きどころです。バードウォッチャー憧れの鳥、アカショウビンにも出会えるかも？



高原の自然館が開館し、さあ、シーズンに入りました！この時期はいつもわくわくとときどきです。日々変化があり、ちょっとでも見逃すまい..と毎年思う繰り返しです。その自然の息づかいが聞こえる八幡での暮らして、ちょっと自慢です。新緑・若葉・薫風・五月雨・青風・ホトトギス…これらは5月の季語だそうです。どれもすてきですね。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info